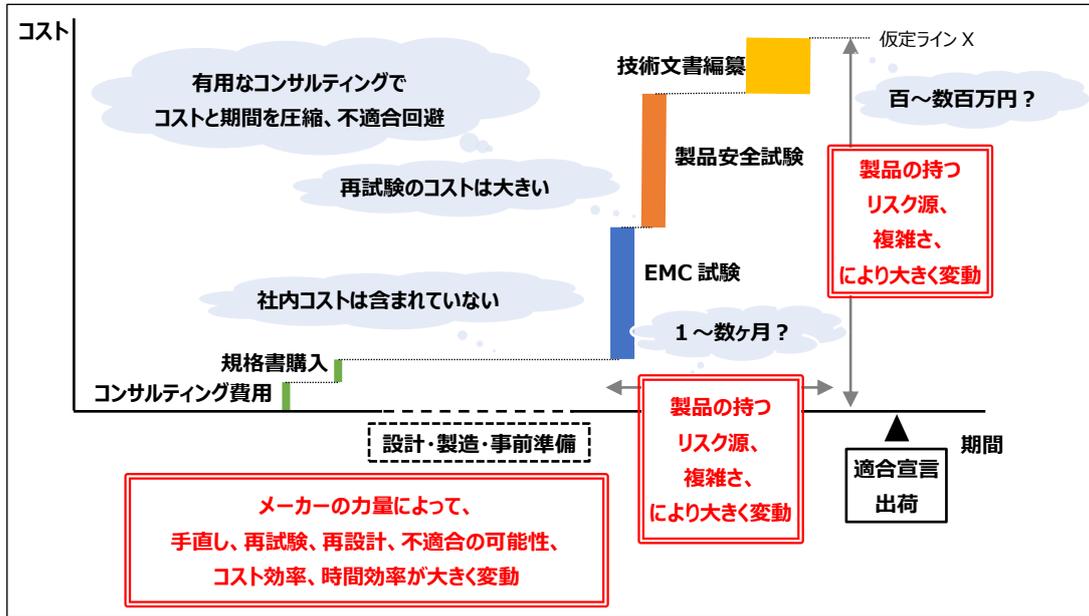


CE マーキングのコストと期間



○ 安全はシンプル イズ ベスト!!

— 危険源は必要最小限に

危険源が存在せず安全であるならば、リスク低減対策は不要で、その評価試験は実施しようもありません。このように設計することは、安全の3ステップメソッドに適っています。危険源を導入せざるを得ない場合であっても、これを必要最低限にすることです。

— 危険領域は限定的に

危険なところと危険ではないところをしっかりと分けることです。危険ではないところに危険が及ばないように、危険なところは確実に隔離します。この意味で製品をブロック化し該当部分はモジュール化します。一旦モジュール化すればそのモジュール化部分の再評価は不要とする運用ができます。絶縁と過電力保護が保証された AC アダプターに変更するなどはいよい例です。

製品の持つリスクが大きく、多種であるほどその防護対策はより確実なものでなければならず、その検証にかかるコストと期間は増大します。またその防護対策の複雑さにより信頼性の検証が必要となる場合があります。

○ 制限事項・使用上の前提条件とのバランスをとる

— 幅広い用途は誤使用の想定範囲がひろがる

『なんでも OK』にすればユーザーの利便性は高く魅力的な製品となりますが、その分クリアすべき安全要求のハードルは上がります。用途、使用者、使用場所などの範囲条件は、メーカーが定義しなければなりません。一方でこれらを限定しすぎると取扱いが難しく使いづらい製品となります。売れる製品でなければ意味がありません。

簡単にあきらめずにハードルをクリアすれば、新しいユーザーの獲得につながります。

○ 外部への委託を最小限にする

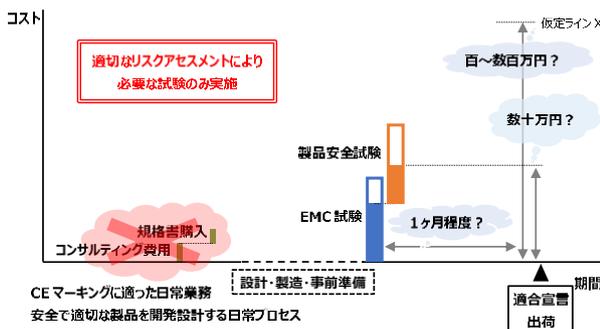
— 自社でできることは自社です

当然ながら外部に依頼すればそのコストはかかります。CE マーキングは“自己宣言”ですので基本的には自社で行って何ら問題ありません（ノータリファイドボディの関与を必要とする一部の場合を除く）。しかしながら、自社で実施する場合のコスト、リスクを考慮され最初の内はコンサルティングを依頼するのも選択肢の一つです。

— 見積依頼上手になる

ご依頼の範囲、条件等が明確で、ご依頼の内容に適った見積用資料を速やかに提示されれば、かかるやりとりによるコストを削減でき、その分見積に反映いたします。

いずれも、CE マーキング適合プロセスを熟知され、“当たり前のこと”として標準化されていけば、左図のように、かかるコストは大きく削減されます。



**不適合を作りこまない = 早い安い適切なよい製品
自ずとそうなるメーカープロセスと支えるスタッフの力**